

平成29年度「飯田型キャリア教育」の取り組みについて

1 ねらい

「ふるさとを愛し、ふるさととともに生きている自分を見つめ、ふるさとの未来と私の夢を創造していける子ども」の育成

2 方針

- (1) 「地育力」を活用した「LG（地域・地球）飯田教育」をキャリア教育の中核に据え、学校と地域が連携したキャリア教育を推進する。
 ※LG（地域・地球）飯田教育とは、ローカルとグローバルを一体的、系統的に学ぶ教育
- (2) 小中学校では、既存の取り組みや教育活動をキャリア教育の視点からとらえ直し、LG飯田教育を中核に据えた「キャリア教育年間指導計画」の作成を進める。
- (3) 発達段階に即して幼保・小・中・高が一貫した理念で、キャリア教育を推進する。飯田市で進めている小中連携・一貫教育においても、キャリア教育を充実させていく。

3 取り組みの経過

平成18年度	飯田西中が5日間の職場体験に取り組む。 第1回キャリア教育推進フォーラムを開催（主催 教委・飯田西中）
平成19年度	飯田西中以外の中学校が3日間以上の職場体験に取り組む。
平成20年度	（教育委員会・文科大臣表彰）
平成21年度	小学校においてキャリア教育の研究（研究指定校・丸山小）を始める。
平成22年度	丸山小・飯田西中において「ふるさと学習」を中核にした小中一貫のキャリア教育の研究に取り組む。（飯田西中・文科大臣表彰） 教科等におけるキャリア教育の研究を始める。 市内の中学校における職場体験日数が、平均5日以上となる。
平成24年度	キャリア教育における小・中・高の連携について研究を始める。 （丸山小・文科大臣表彰）（飯田市キャリア教育推進協議会が文科省・経産省主催「キャリア教育推進連携表彰」で、優秀賞を受賞）
平成26年度	「全国学力・学習状況調査」で、飯田西中の学力向上が評価される。
平成27年度	市内全小中学校でキャリア教育指導計画が策定される。
平成28年度	キャリア教育指導計画を基に小中学校で実践される。 小中連携・一貫教育の各中学校区の専門部会等で研究された。

4 重点的な取り組み

- (1) 「地育力」を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組み（プラットフォーム）を充実させる。

①既存の組織について

組織名	回数	活動のねらい
飯田市キャリア教育推進協議会	年2回	推進のための諸機関、諸団体の連携
飯田市キャリア教育研究委員会	年5回	具体的な指導方法の検討

②組織の充実のために

本年度と同様に小・中・高の連携を考え、高校の先生方には研究会委員会への参加を依頼する。各学校の情報共有を図り、義務教育での学びを繋げていく。

(2) 職場体験学習の指導を充実させる。

- ①事前・事後学習の指導を一層充実させ、その振り返りを通して自分自身の成長や今後の課題に気づかせる。
- ②受入事業所向けに職場体験学習に関わるリーフレット・作文コンクール作品集を配布し、事業所に対して職場体験学習の意義や効果的な実施方法等について啓発していく。
- ③生徒たちが主体的に職場体験場所を選択できるようにするために、受入事業所の拡大を図る。

(3) 各学校における「キャリア教育年間指導計画」を充実させる。

- ①教職員のキャリア教育への理解を深め、指導力向上のための研修を充実させる。具体的には、各学校のキャリア教育担当者を対象にした研修会を持つ。
- ②キャリア教育の視点（5つの能力のフィルター）への理解を深め、各学校における既存の取り組みや教育活動を、キャリア教育の視点で見直し年間指導計画へ位置付けていく。
- ③L G（地域・地球）飯田教育については、中学校区毎に内容を整理し体系化して、年間指導計画に位置付けていく。

(4) 家庭や地域との連携や協力を充実させる

- ①各学校にある「地域との連携組織」を活用し、キャリア教育への啓発を図るとともに、「L G飯田教育」をさらに充実させていく。
- ②キャリア教育の取り組みを通して、成長した子どものよさを授業参観日や学校だよりなどで、家庭や地域に発信していく。

5 継続していく取り組み

(1) 教育委員会による職場体験学習のコーディネート(年間を通して)

- ①学校と受入事業所との連絡・調整に当たる。
- ②学校と連携して事業所訪問を積極的に行い、受入事業所の拡大に努める。
- ③職場体験学習の事前・事後学習の講師の派遣をする。

(2) 第12回飯田市キャリア教育推進フォーラムの実施（30年1月27日予定・開催場所未定）

- 飯田型キャリア教育（学校、家庭、地域の取り組み）の取り組みの成果を発信する。

(3) 結いジュニアリーダー育成講座第9期生（中学2年生対象）の実施（6回）

- ①体験活動を通して「働くこと」の意味を考え合うとともに、生徒会等の情報交換を通して中学校間のつながりを作る。
- ②活動の成果は、キャリア教育推進フォーラムで発表する。
- ③各中学校でも、育成講座の活動について発表できるような機会も考えていく。

(4) 結いキャリアアップ体験講座（教職員対象）の実施（2回）

- 農業体験等を通して教職員のキャリアアップを図る。（7月、12月実施）

(5) 小学生・中学生・高等学校生徒を対象に「働く」ことをテーマにした第8回「結いのまち飯田」キャリア教育作文コンクールの実施。

- ①キャリア教育の啓発と飯田市のPRを兼ねて、全国的に作品を募集する。
- ②入賞作品集を作成し、各学校のキャリア教育における補助教材として活用する。

(6) 家庭におけるキャリア教育としての「わが家の結いタイム」の推進

- ①わが家の結いタイム推進協議会や飯田市PTA連合会と連携していく。
- ②第9回わが家の結いタイムポスターコンクール、第7回わが家の結いタイム三行詩コンクールなどを通して、わが家の結いタイムの啓発に努める。

(7) 「※教育委員会の広報誌」の発行や「地育力どっとネット」の運用（年間を通して）

- キャリア教育にかかわる情報を充実させ、発信していく。
- ※地育力通信を、教育委員会全体の広報誌として発行予定。

LG (地域・地球) 飯田子ども未来事業交付金について

●LG (地域・地球) 飯田子ども未来事業とは



・平成28年度までの「ふるさと学習・体験活動」に「グローバルな視点」を取り入れた学習を「LG (地域・地球) 飯田子ども未来事業」として交付金による支援を行います。

対象事業	グローバルな視点	交付申請	交付金額 (昨年度実績)
【事業1】 ふるさと学習にGの視点をプラスした学習	・世界規模の広い視野で物事を多面的に見る ・世界とのつながりを意識する ・世界と比較しながら地域を学ぶ ・世界の異なる文化、価値観を知り日本を客観的に見ることで、違った価値観、考え方を認め合う	市内小中学校 もしくは 学校運営協議会で申請	基本額 38,000円 + 学級数 × 1,000円
【事業2】 市内の農林漁商家への民泊を伴う体験活動にGの視点をプラスした学習			参加する児童・生徒 × 4,000円 (1泊につき)
【事業3】 市内の公共施設・民宿への宿泊を伴う体験活動にGの視点をプラスした学習			参加する児童・生徒 × 3,000円 (上限1人3,000円)

〈申請受付期間〉

事業1 3月13日 ~ 5月19日
 事業2・3 実施日の1か月前まで

●学習の取組み例

【事業1 ふるさと学習+Gの視点】

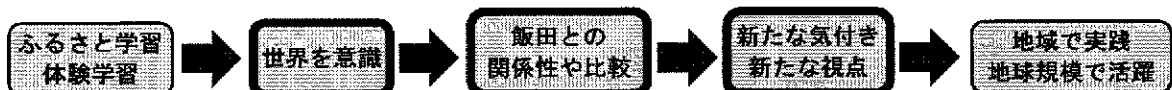
事業内容	Lの視点 (例)	Gの視点 (例)
水引工芸	・地域の水引工芸の歴史を知る ・水引作品作り体験 ・伝統産業の継承 ・携わる人々の苦労や課題を把握する	・世界の紙を使った「結ぶ」文化と、日本の水引を比較して、日本の伝統文化としての価値、独自性を見出す ・水引の素晴らしさを世界に発信するために自分たちにできること
人形劇フェスタ	・人形劇フェスタの歴史を知る ・伝統芸能の継承 ・人形劇フェスタへ参加する	・地域外の劇人との交流を通して、世界の中の人形劇を意識する → 世界の文化の多様性
菱田春草	・ふるさとで育った偉人を知る ・春草の作品を知る ・春草の生き方を学ぶ	・既存概念にとらわれず、広く世界に目を向け、伝統的な日本画に新たな技法を取り入れ、新たな「日本画」を創造してゆく春草の姿

【事業2 農業宿泊体験等+Gの視点】

事業内容	Lの視点 (例)	Gの視点 (例)
農業宿泊体験	・ふるさとの農業を知る → 実情、課題、歴史 など ・自分の知らない飯田市を知る ・農業体験 ・宿泊体験 → 初めて会う人、家庭との交流	・世界につながるコミュニケーション能力の育成 ・県外からの体験旅行やインバウンドの実情から世界に広がる日本のグリーンツーリズムを学ぶ ・世界経済が日本の農業に与える影響 ・海外への販路拡大

【事業3 宿泊体験活動+Gの視点】

事業内容	Lの視点 (例)	Gの視点 (例)
防災キャンプ	・地域災害の歴史を知る ・身近な災害に備える ・地元消防団の活動を知る ・地域防災プログラムを作成する	・海外の紛争や自然災害、世界的な飢饉や病気で苦しんでいる人に目を向ける



学年に応じた系統立てた学習の組み立て (例)

知る・体験する (低・中学年) → 気づく・考える (中・高学年) → 行動する (高学年・中学生)